

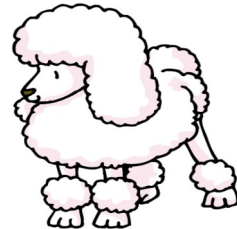
ルビコンを渡る

1955年以来、わずかな期間を除きほぼ一貫して続いた自民党の単一支配。政権交代がない政治に、本物の政策論争は生まれません。

政治記者は、有力政治家に擦り寄り、食い込み、あたたかも参謀秘書か仲介役のように立ち回って、しだいに政局通になる。やがて大物記者、政治評論家と呼ばれる人々

官房機密費の公開

名ジャーナリストや政治評論家はメディアから退場すべきだった。



「政治とカネ」「普天間」というキーワードに頼って、自ら提案することもなしに無定見な批判を続けるしか活路を見い出せなくなっているようにも思える。

てきた情報ネットワークが自民下野で遮断され、新政権の記者会見開放などで既得権が脅かされつつある今、彼らは「政治とカネ」「普天間」というキーワードに頼って、自ら提案することもなしに無定見な批判を続けるしか活路を見い出せなくなっているようにも思える。

る情報環境をつくりあげれば、誰が政権を握ろうとも、政治は国民に政権交代されないう、試行錯誤を繰り返しながらも少しずつよい方向に向かうだろう。

危機に直面しているのはむしろマスメディアだ。時代の変化に対応できていないのは政治ジャーナリズムである。「政策記者」を育て、大人の政略を語る政治評論家を発掘すべき時がきている。

―永田町異聞より

党内の派閥抗争に血道を上げる政治家たちの本音や人間関係、密談の内容などにめっぽう詳しいがゆえに、彼らはメディアで重宝され、テレビの企画に合わせた商売用の発言で世の中の空気をくっつけていく。

世間の好奇心に迎合するだけの低次元の発言がどのように政治を歪めているか一顧だにしない。彼らの中に官房機密費から拠出された税金を盆暮れに受け取る不心得者がいるのもなんら不思議はない。

政治ジャーナリズムは政権交代とともに刷新されなくてはならなかった。自民党政権と癒着し、適当な批判

がそのなかから誕生する。政策立案は官僚に丸投げし、

ポーズを示しつつ、もちつもたれつで甘い汁を吸ってきた有

これまで長年にわたって築い

危機なのは政治ではない。メディアが正確に事実を報じ、バランスのとれた判断のでき

流れを感じると先が見えて来るものらしい。

も呼び込むといえます。

何ら変わっていない。

唯一確かなものは自然の流れや形だと思ふ。

太古の人類が持っていた自然界で育み生きる感覚は退化し、自然に君臨し生き延びた生物が継承した「利

人間にとって自然体とは、素直、正直、そしてちよつとした勇気でしょう。これが自然の一部である人間です。

しかし、よく見ると自然は、小さな流れほど常に形を変え変化しています。人はこの小さな流れの変化に、どうしても翻弄されやすいのです。

流れを感じる

世の中は、他人への意識の反射が明日の自分を形成する仕組みで成り立っています。何処かで読んだことがあります。

だが主流の勢いは簡単に元に戻らないのが自然界の法則です。(何が主流?)

「害得失」の異常繁殖で、自然である人間が病んだ。偏向マスメディアの増殖は、正に大本営発表時代と

結局は大きなスパンで、すべて自分に返ってくるのだと・・。

(有)西川経営オフィスサービス

中村会計

事務所便り

2010年5月17日(月) No114

地域から明るい未来を作ろう